

よぬだ ところどころ



第四号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

今尾の竹腰氏と下米田

上記の写真を次の観点から観察してみると



- ・この石がどこでみられるか
- ・今地区の水田の中にあるビニールハウスの入口にある
- ・どのような石か
- ・飛驒川から上げられた濃飛流紋岩からなる円礫

何が書かれているか

・「竹腰林」と文字が陰刻されている

江戸時代、木曾川や飛驒川の川湊や周辺農村を支配したのは尾張藩であった。なかでも、下米田の飛驒川沿いの村は、尾張藩の付け家老である今尾の竹腰氏が知行していた。従って、この円礫の川石は竹腰氏がつくらせたものであることがわかる。この「竹腰」という氏の下に「林」という文字が記され、この石が設置された目的は、「ここからは竹腰氏の所有する林野」であることを示すものであることが分かる。この石が元々どこにあったかを尋ねると、東山の山中ということであった。多分、明治以降不要となった石を平地に引き下げたものであろう。農業用の水に苦労した下米田の人々が、白山の斜面一帯にため池を構築し、水源涵養林として山を大切に保持してきたことがこれから分かる。明治以降、津田左右吉の父藤馬がこの地に移住したのも、今尾の竹腰家のご縁であると考えられる。